

献上した。家康と秀忠は、大坂の陣で討ち取った一つ目の首であると喜んだ。松倉の領地である二見から国分へは三一・四キロメートルほどの距離があった。その時、大坂から大和国へ押し寄せてきた軍勢は三万とも五万ともいわれている。大和国中の者は皆東の山中へ逃げ落ちていった。

大坂の陣の後、松倉は島原しまばらに六万石余りの領地を与えられた。その後、松倉は病死し、松倉勝家が跡を継いだ。筒井定慶は伏見へ向かおうと、山城国の近辺まで来たところ、世の人がいうには、定慶は戦いもせずみに郡山の城郭から撤退したとの噂に接したため、途中で南都へ帰り、興福寺の妙喜院みょうきいんで切腹したと言い伝えられている。

一、大坂城落城の後、とにかく郡山に城がなくては不都合であろうと家康は考え、再び伏見城を取り壊し、郡山へ移築した。そこに水野勝成を向かわせ、六万石の領地を与えた。水野は六年間居城した。城の普請ふしん（城郭整備）も大部分は水野が滞りなく済ませた。

水野は転封てんぽう（領地替え）を命じられ、そのあとには松平忠明が十二万石を拝領して入城した。寛永三年（一六二六）、將軍徳川家光上洛の際、將軍は南都へも参詣するとのことであった。したがって、郡山に一泊する予定となり、本丸御殿など、幕府による整備があった。また、東大寺九折山つづらお（若草山）の麓に茶屋を建てた。しかし参詣はなかった。

松平忠明は郡山城に二十年居城し、寛永十六年（一六三九）、播磨国姫路への転封が命じられた。その一、二年前、幕府へ願い出て三万石の延高のべだかが認められ郡山は合計十五万石となった。

その後、本多政勝・本多政長・松平信之・本多忠平が居城した。